

新型MRIの導入について

当院のMRI装置が新しくなりました!!

開院以来使用してきたMRI装置が、今年の2月よりキャノンメディカルシステムズ社製1.5テスラ超電導磁石式全身用MR装置Vantage Fortianという機種に更新いたしました。

Vantage Fortian

質の高い検査を日常に。



MRIとは、非常に強い磁場と電波を利用して人体のあらゆる角度の断面を画像化する検査です。磁場と電波を利用しており、レントゲンやCTのように放射線を使っていないので放射線被ばくがありません。

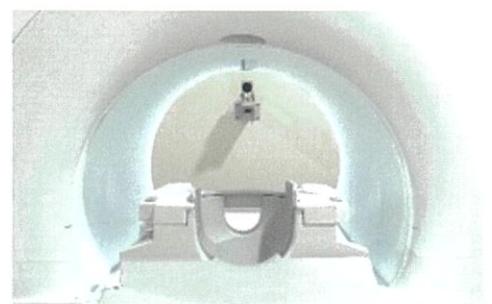
MRI検査は圧迫感のある狭い空洞の中で検査を受けなくてはいけません。以前の装置は60cm口径だったのが、今回導入した新型装置は71cmと大口径となっています。これにより、体格の大きい方や腰の曲がった方にも楽な姿勢で検査を受けていただくことが可能となりました。また、一般的なMRI装置は検査中に装置内部のコイルが振動することで、工事現場のような非常に大きな騒音が発生します。

今回導入したMRI装置は騒音発生源であるこのコイルを密閉封入することで検査時の音が低減され検査を受ける患者さまにやさしくなりました。

また、室内はLED照明で明るい検査環境となりました。



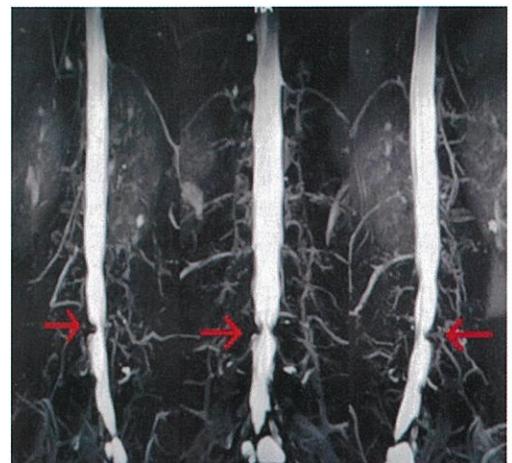
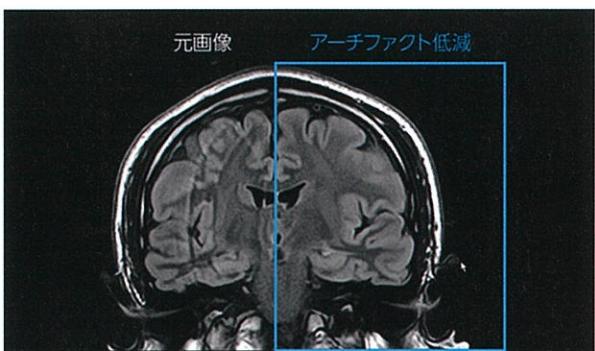
71cmの大口径



トンネル内を明るく照明

MRI検査は他の画像診断装置に比べて非常に検査時間が長く、検査時間を短くすれば画質が低下し診断に影響します。検査時間が長いため検査中の体動による画像の動きにより再撮像を繰り返し、さらなる検査時間の延長を余儀なくされることもあり、以前のMRI装置で短時間・高画質を両立することは困難でした。

1982年に日本国内の病院で最初に診療用MRI装置が導入されて以来、約40年、MRI装置も飛躍的に進歩してきました。今回導入した装置は、現在大きな脚光を浴びているAI技術で、全身のあらゆる部位(頭部・脊椎・乳房・腹部・骨盤・関節)で高精細画像と高速撮像が可能です。それによって高画質で撮像ができ、検査時間(以前の1/2~1/3)の短縮や体動の補正、呼吸による動きの補正も可能となりました。



腰椎MRミエログラフィー
(椎間板ヘルニアによる圧排像)

当院はAI技術を搭載した新型MRI装置を導入したこと、地域の先生方にもご活用していただき、患者さまに安心して検査を受けていただけるように、放射線技術科スタッフ一同、質の高い医療の提供を心がけていきたいと思いますので宜しくお願ひいたします。

検査を受ける際のお願い



- ✓ MRI検査を受けられる方は、金属類の吸着防止のために、検査着に着替えていただきます。
- ✓ 体内に心臓ペースメーカー、古いタイプの脳動脈クリップなど金属が埋め込まれている方は検査ができません。
- ✓ 金属類、磁気カード、その他(義歯、補聴器、カラーコンタクト、機能性肌着、ジェルネイル、ラメ入りメイク、カイロ等)は持ち込みできません。
- ✓ その他、ご不明な点は、主治医または看護師にお尋ね下さい。
(放射線技術科 和久 隆)